|  |
| --- |
| １　小学校　１年生（全学年適宜） |
| あんぜんに、とうげこうしよう（おおあめやたいふうのとき） |
| 指導する学年 | １年（全学年適宜） | 指導場面 | 帰りの会等 | 指導する時数 | （１０分） |
| 本時のねらい | 大雨や台風時に、安全に登下校するための注意点を知る。 |
| 使用する資料 | 川の増水の写真（神戸市灘区都賀川）注意点を書いた用紙（P.21）注意点の拡大掲示物 | 基本的な指導内容 |
| 大雨・台風による災害「知る・備える」「行動する」 |
| 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
| １．現在の大雨や台風の状況を知り、安全に登下校する必要性に気付く。あんぜんに、とうげこうしよう。（おおあめやたいふうのとき）２．登下校の注意点を聞く。○１人で登下校しない。家の近い人と一緒に登下校する。何かあったら大人に知らせる。○一列で歩く。横に並んで歩かない。○決められた通学路を通る。普段と様子がちがい、危険を感じたら、学校にもどる、または近所の大人に知らせる。○川や水路、海、マンホールに近づかない。○橋から身を乗り出さない。○がけの下には近づかない。○地下道やアンダーパスに水がたまっていないか注意する。○あわてて走らない。（道路や階段はすべりやすい）○自動車や自転車の動きに、いつもより注意する。○かさをさす場合、前が見えるように持つ。○飛んでくる物に注意する。○家に帰りついたら家族に知らせる。○外に出ないで、家で安全にすごす。３．下校の方法を聞き、下校の準備をする。 | ○学校として、児童に伝える気象情報をあらかじめ確認しておく。○自分の命を自分で守ることの大切さを伝え、通学路を安全に登下校するために、普段よりも注意が必要であるという意識付けをする。○口頭で伝えるだけでなく、注意点を記載した用紙を配付したり、拡大版を掲示したりして、児童に注意点を印象づける。○川の増水の写真を示し、危険をイメージさせる。　　　　　１０分後○登下校の際に注意が必要な場面や危険箇所を具体的に例示しながら説明する。○雨の時は注意が散漫になり、交通事故に巻き込まれやすいことを伝え、十分に注意するよう促す。（まわりが見えにくい、音が聞こえにくい、道路がすべりやすい、かさに気をとられ足元がおぼつかない、自動車の運転者の視界がせまくなり気付かれにくい等）○状況によっては、下校の方法を指示する。（集団下校、保護者への引き渡しなど）○教員は児童の安全確保に努め、学校体制を確認しながら、下校引率指導や巡回指導にあたる。○保護者に下校の方法を連絡し、児童の下校の確認を依頼する。 |
| 関連する教科・行事等 | 特別活動（児童会活動）：「地区別子ども会」「地区別集団下校」等 |

**大雨や台風時における登下校の注意点（例）**



写真提供：国土交通省

アンダーパスの

≪指導上の留意点≫

＊この内容は、大雨や台風時に２年生以上でも発達段階に応じて指導する。その際、高学年の児童にはリーダーとなって、下級生が安全に登下校できるよう配慮することを指示する。特に、マンホールやアンダーパス等の低学年が気付きにくい危険箇所に注意を払うこと、大雨の時は交通事情が悪く、自動車の運転者もこちらに気付きにくいこと等を伝える。

＊翌日の登校では雨や台風がおさまっていても、河川の増水や道路の浸水、暴風による飛来物の散乱等の危険が考えられるので、油断することなく注意しながら登校するように指導しておく。

≪資料紹介≫

　右の写真は、川が短時間で増

水することを印象づける資料と

なる。（神戸市灘区都賀川の増水

P.37に掲載）

**に、しよう。（やのとき）**

【をつけること】

○でしない。のいとにする。かあったらにらせる。

○でく。にんでかない。

○められたをる。とがちがい、をじたら、にもどる。またはのにらせる。

○や、、マンホールにづかない。

○からをりさない。

○がけのにはづかない。

○やアンダーパスにがたまっていないかする。

○あわててらない。（やはすべりやすい）

○やのきに、いつもよりする。

○かさをさす、がえるようにつ。

○んでくるにする。

【にったら】

○にりついたらにらせる。

○にないで、でにすごす。

写真提供：神戸市

マンホールに！

イラスト提供：三鷹市

10分後